

日本の世界遺産めぐり その八 厳島(いつくしま)神社(文化遺産)



厳島神社
 広島県廿日市宮島町1-1



厳島神社大鳥居

広島湾に浮かぶ厳島。宮島の北東部、弥山の北麓に鎮座する厳島は、一般的に「安芸の宮島」とも呼ばれ日本三景(他、天橋立・松島)の一つに数えられている。当社は

平家からの信仰が有名で、平清盛により現在の海上に立つ大規模な社殿が整えられた。社殿は現在、本殿、拝殿、回廊など六棟が国宝に、十四棟が重要文化財に指定されている。そのほか、平家の取めた平家

納経を始めとした国宝・重要文化財の工芸品を多数収めている。当社の平舞台(国宝・附指定)は日本舞台の一つに数えられるほか、海上に立つ高さ十六mの大鳥居(重要文化財)は日本三大鳥居の一つである。

夏に行われる例祭「菅絃祭」としても知られる。平安時代末期、神主佐伯景弘と当時の安芸守・平清盛の結びつきを契機に平家一族から崇敬を受けた。仁安三年(一一六八年)頃、平清盛が社殿を造営し現在と同程度の規模な社殿が整えられた。平家一門の隆盛と、共に当社も栄えて平家の氏神となった。平家滅亡後も源氏をはじめとして時の権力者の崇敬を受け

るが、建永二年(一一二〇七年)と貞応二年(一一二二三年)の二度の火災で建物の全てを焼失している。そのため現在残る社殿は仁治年間(一一四〇年〜一二四三年)以降に造営されたものである。厳島は神の住む島として禁足地とされ、鎌倉時代頃までは地御前神社(外宮)において主な祭祀が行われていた。鎌倉時代末期から南北朝時代以降、社人、僧侶が禁を破って住むようになったとされる。江戸時代には厳島詣が民衆に広まり、門前町や周囲は多くの参拝者で賑わった。

明治維新後、神仏分離により大聖院、大願寺といった寺院が独立した。明治四年(一八七二年)



近代社格制度において国幣中社に列し、明治四四年(一九一一年)に官幣中社に昇格した。社殿は海の上に建てられており、台風・高瀬の影響を受けるのは宿命的であり、床の木材を隙間を空けて敷くなどの対策をとっているが、それでも大型の台風が直撃した際には倒壊などの被害を受けることがある。しかし、そのたびに大規模な修復を行っており、修復することを前提に建てられた社殿であるといえる。

世評・時評

東日本大震災から3年3か月が過ぎるが、テレビ、新聞、ラジオの報道を見聞きするたびに、復興は10%にも達していないのではないかと思われる。被災された皆さんの事を思うと、何とか早く動き出さないと何かいつも思う。避難勧告が解除された地域での話だが、我が家に帰ったら家中がネズミの糞だらけ。いつ頃の物とも判らない鳥の死骸。また家の外周をみると畑、田んぼの形は以前のまま残ってはいるが、もう言

葉に出来ない程の荒れ果てた現実にも動かず。しばらく呆然として、頭の中が真っ白になったきり佇んだままで、気が付いたら3〜40分も経過していたという。しかし、これから先の事を思った時に、ここ以外でも沢山の被災者が心を強く持ち、頑張っているのだから一緒にいっていかなくてはならないと、気持ち奮い立たせたと

実際に被災された農家の話である。K・ドラゴン



夏の花火 ペンネーム 額田美保

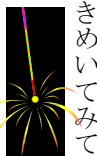
薔薇に紫陽花そしてどくだみの白い花、初夏を彩る花々が我が家の狭庭を賑わし始めると、やがて夏の花々が、一斉に次々と咲き溢れるのです。沢山の美しい花々。そして紺碧の空。山が、海が、爽やかな風が、人々の心を開放的にし、生きている喜びをくれる夏。さあ、負けずに夏を満喫しましょう。唯、暑い暑いとぐったりしているのでは駄目だと思えます。何か一つの目的を決めてそれを目指して見ては?

若い頃とは確かに違い

ますが、夏は同じなので昔の想いを引きだして見る努力をします。そしてこの夏の楽しい思い出を作るといふのはどうでしょう。無理だ何とも思いつかない、歳なんだから。そうですよね。一そうだう花火はどうでしょう。「夏の花火」は「夏の風物詩」です。夏の夜空に一瞬パツと咲いて、瞬く間に消えて終わるあの花火を、自分の胸の中に咲かせるのです。そんな事できない。大丈夫出来るのです。勿論美しい花にときめくのも良いでしょう。何でも良いのです。一つ思

い浮かぶ事があつたらしめたものです。それに夢中になるのです。美しく儂い命を精一杯暗い夜空に咲かせて見せて、消えてまた咲きまた消える。花火は真夏の夢のファンタジー。幾つもの浮きも自分の胸に熱い思いを浮かべては、燃やしてそっと消すのですが、消えるまでの短い間に咲かす胸の花火。他人には見えない色々な秘密の花火を胸に熱く燃やして、消えても又燃やす自分だけの花火です。

たまには夏の思いを胸に託してときめいてみてください。



葵友の会 広報コーナー

6月度行事の結果

グルメ探索・練馬駅前中華料理「唐苑」のランチ
 3日(火)
 練馬駅・西口を出て目前にある「唐苑」にて名物の黒酢すぶたを含むランチコース(何と2千円!)を堪能しました。23名の参加。



カラオケ台

2日(金) バンバンにて11名の参加でした。

7月度行事の予定

練馬・大歌舞伎
 17日(木)
 三代目中村又五郎、四代目中村歌昇襲名披露公演です。

カラオケ台

18日(金) バンバンにて。
 (事務局長)

◆編集委員会より
 「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

利用者さんの
紹介コーナー

安部 豊幸(目)

少しずつ運動をしていますが、思っています。暖かく、長い目で見守ってください。



縣 百合子(火)

趣味はゴルフです。退院後の初めて参加したコンペで準優勝をしました。運もよかったです。少しでもうれしかったです。少しづつ元のペースを取り戻していきたいと思っています。



佐多 兼敏(水)

今はとてもできませんが、硬式テニスを楽しんでいました。葵では、マッソ体操をがんばっています。



『落語の中の酒』

絹田 治夫

上方のくだり酒

珍重し熱燗でやるのが江戸のスタイル。落語における人情の機微を表現する上で、欠かせない存在のひとつが酒である。人々は酒を味わい、酒に酔うことで心の奥に秘めた本音を吐露していく。さらに酒量が進み、我を忘れるほど酩酊した者は、時には信じられないほどの大騒動を巻き起こすことさえある。ここでは、さまざまな落語の演目に登場する酒

の話をしていきたい。赤ん坊を褒めて、ただで酒をこ馳走になるうとする『子ほめ』。この噺には、最上級の酒の代名詞的存在として「灘の酒」が登場する。このように江戸では、灘や伏見といった酒造の本場ものは「くだり酒」と呼ばれ、とくに珍重された。一方で、それよりもランクの落ちる安物の地酒も、数多く出回っていた。一般的に江戸の人々が口に出来たのは、もっぱらこちらの方であり、それが落語にもある文化的影響を与えるようになった。

古典落語に登場する酒



何故彼らはそこまで爛にこだわるのか、たとえ『二番煎じ』で爛酒が

は、基本的にすべて爛がしてある。『夢の酒』ではあくまでも冷や酒(常温の酒)は飲みたくないと言いつつ、たばかりにご隠居は酒を飲み損ねるし、『替り目』ではわざわざ流しのおどん屋を呼び寄せ、まで酒の爛をつけさせている。現代人は、爛酒は寒い時に飲むものと思っているが、『鰻の封筒』のように典型的な夏の噺でも登場するのは爛酒である。登壇するのは、この噺の舞台が冬の寒い晩だからではない。「冷やは身体に毒」だからだと、噺の登場人物がちやんと説明している。『矢橋船』で、ご隠居が船の中に携帯用の爛セットを持ち込んでまで爛酒を飲もうとするのもそのためだ。では、何故冷や酒は毒なのか？ 実際には冷や酒だからといって身体に悪いのではなく、そうでもしなければ飲めなかったと言うのが実情でした。今回はこれにて：おしまいです。

ふわふわ亭わび助

俳句の勉強会

岸野 弘子

足袋つぐや ノラともなす ず 教師妻 杉田久女 先日いただいた勉強会の資料に、私の好きなこの句がありました。ノラとは、イプセンの小説「入形の家」の主人公で、夫と離婚し一人で生きてゆく現代女性です。久女は、このノラのように自立もできず、足袋の綻びを繕っている自分の今の感情を、十七文字で表現していると思うのです。

このように、世界一短い小説と思える俳句は、素晴らしい表現だと思えます。しかし最近、季語や漢字の読み、書き、言葉の使い方など、辞書を

趣味三昧の老後

大内田 日出人

私は今年で九十歳の卒業になる。戦前、戦中、戦後と、日本が激動した昭和の時代が、私の生涯の大

半である。この年になると、親族、学友、社友等の親しかった人々が、次々と故人になって行く。妻も亡くなってから、はや三回忌となる。「生者必滅」(会者定離)と言うのが、矢張り別れは辛い。近頃、時々云いようもない孤独感や寂寥感に襲われることがある。でも、私にはいくつもの趣味がある。俳句、囲碁、麻雀、カラオケ、謡曲等である。これらの趣味に熱中することで、寂しさから救われていることに気がついた。いま少し凝っているのが、囲碁と俳句である。囲碁は、毎日三段級のパソコンと、勝ったり負けたりと楽しんでいる。又、老人会の囲碁クラブに入り、囲碁大会やリーグ戦

あおい俳壇・歌壇

初夏の風 大空を吹き 露地を吹き 巣作りにつばめ返しの 早業で 愛(いと)しみて くれし入らさ 想ふれば 我がこの道の ほろりほろり 生きてある 唯それだけで 幸多し 感謝あるのみ 永き生命(いのち)に 河西千恵子 バイトして ネクタイ祝う 娘らに 目もやわらかし 今朝の夫は やわらかき 日ざしを受けて 語り合おう 八重桜咲く 養育院の庭 麻生伊登子



濃紫 七妻(つま)の好みの 花菖蒲 妻逝きて はや三回忌 梅雨に入る

異常気象と熱中症

小林 辰男

気象庁は6月5日、全国に「梅雨」入りを発表、その後しばらくはハッキリしない空模様だった。このところ関東地方は

大雨・洪水注意報や警報が続いている。山側では土砂崩れ、海では、大波、高波警報を出したが局部被災したところがある。ここ数年の「異常気象」の影響なのか、北海道地方では今まで経験したことない30度以上となった日が何日もあった。北海道は広大ゆえ、局地的に、突然夏がやってきた様な暑さに閉口していた。夏に向かって特に気を付ける事は「熱中症」である。飲み物はいつも身近に置いて、気付いたら水分を補給する。高齢者は寒暖差に対する身体の反応が鈍いから特に注意が必要である。

